

第一弾

そうとごぜん 桑都御膳



まなぼう！たべよう！

つたえよう！

八王子の歴史文化



「織物のまち 八王子」

八王子市は「桑の都(桑都)」とよばれ、古くから養蚕業や織物が盛んでした。江戸時代には、織物や生糸が八王子の市に集まってきたことから、「八王子織物」と呼ばれました。

現在でも、全国有数のネクタイの生地などの産地として発展を続けています。

八王子駅の北口には、八の字に巻いた絹をイメージしたモニュメント「絹の舞」があります。



桑都揚げ

桑の葉粉を混ぜた衣を笹かまぼこにつけて油で揚げます。

八王子は、昔「桑の都」と呼ばれ、絹織物産業・養蚕業(蚕を育てて繭を摂ること)がとても盛んでした。

絹のお吸い物

シルク(絹)パウダーを入れた団子を「繭」に、そうめんを「絹糸」にみたてたすまし汁です。



かてめし

【かて】は「まぜる」という意味です。昔、お米はとても大切な食べ物で、たくさん食べられなかったため、野菜などをごはん混ぜて量を増やしたのが始まりです。



八王子市には、「絹の道」とよばれる道があります。

160年前、横浜港から生糸（繭からとったまま、加工していない糸）を外国に輸出するために、八王子から横浜港へ、大量の生糸を運ぶときに使われたのが「絹の道」でした。



「絹の道」は、《歴史の道・百選》に指定されています。

お米を大切に、一粒も残さないようにしたい。



「桑都」の呼び名の由来がわかった！

繭玉の形をしたお団子がもちもちしておいしい！